

諸葛宗男：（東京大学公共政策大学院特任教授・元東芝）

「1960 年頃の大気中セシウム濃度は、今より 1 万倍高かった（中国・アメリカ・ソ連が核実験をしていたから）。だから、そんなことで農家の方が自殺するのは極端すぎる。過剰な心配は不要」

（4 月 「テレビ朝日」 『宝島』 7 月号より）

■■（文科省が発表したデータで、東京の降下物として検出したセシウム 137 は、1963 年の約 2.8 倍で、自殺した農家の人の絶望感を裏付ける数値が出ていた）。そしてその核実験の放射能で日本の乳児死亡率が高まったというデータがある。

中川恵一：（東大病院放射線科准教授）

「100 ミリシーベルト未満では、人体への悪影響がないことが分かっています」「100 ミリシーベルトを被曝しても、ガンの危険性は 0.5 % 高くなるだけです。そもそも、日本は世界一のがん大国です。2 人に 1 人が、がんになります。つまり、もともとある 50 % の危険性が、100 ミリシーベルトの被曝によって、50.5 % になるということです。たばこを吸うほうが、よほど危険と言えます」（「週刊新潮」3 月 31 日号）

「チェルノブイリで、実際に増加が報告されたのは『小児の甲状腺がん』だけでした」

（「週刊新潮」4 月 14 日号）

■■たばこと比較すること自体間違っているし、チェルノブイリについて理解不足。今大人に甲状腺がんが増加中だし、2006 年の時点で、ロシア・ウクライナ・ベラルーシ三国の健康被害者は合計 700 万人にのぼる。